

研修効果評価のための運転技能測定手法に関する調査研究報告書（平成5年度）

自動車安全運転センター安全運転中央研修所では、研修の内容を一層充実・強化していくために、研修効果を客観的に評価するための運転技能測定手法が求められている。そこで、平成5年度から3ヵ年計画で調査研究を行うこととした。初年度は「一般・企業運転者課程」の研修者28名を対象に、研修前後の運転技能測定、アンケート等を実施した。

- ① スキッドコントロールについては、走行所要時間による判定と個々の走行の状況を対比すると、今回測定した運動行動の変化と研修の間には何らかの関連があるのではないかと考えられる。そもそも測定に当たって「スキッドコントロールの研修では何ををもって効果とするか」についての十分な検討が、今後の課題である。
- ② スラローム走行については、研修後の頭部及び背中の振れは小さくならなかったが、個々の被験者の振れの改善状況と各被験者のドライビングポジションを重要であると考ええる意識の間には、何らかの関連があるように思われる。体の振れ及びコース通過所要時間を測定することは、ドライビングポジションの研修効果を評価する尺度としてかなり有望ではないかと考えられる。
- ③ 模擬市街路走行については、平均的には研修後のほうが研修前より、歩行者等を想定したパネルの発見数が多くなっていた。各項目についてもっとデータを集め、運転技能試験担当者等の主観的な評価とつき合わせて評価を行えそうなものをつくる必要がある。
- ④ 映像による危険予知能力テストについては、研修後に得点が増加したのが28人中16人、変わらなかったのが5人、減少したのが7人であった。実験結果を評価に結びつけるには困難な点があるが、研修の結果を評価するためには何らかのものが必要であり、教官の評価とのすりあわせを行うなどして、より実際的な研修効果の評価ができるように検討を行う必要がある。
- ⑤ アンケート調査の結果、運転への意識が変わったのは「雨天・積雪時の減速の実施」(82%)、「雨天時のグリップ走行の心がけ」(91%)、「濡れた路面等での速度調整」(100%)「駐車車両の側方通過時の速度等への注意」(90%)である。
- ⑥ いずれの項目においても、研修効果を測定するのに適した測定方法であるかどうかは分からないまま、初期の目的である研修効果の評価を行った(表)。総合的な評価に向けて、より良い測定方法を確立したいと考えている。

表 各項目の被験者別評価のまとめ

被験者番号	スキッドパン	スラローム	模擬市街路	映像テスト
1	○	○	○	△
3	○	△	○	○
4	○	○	×	○
5	○	△	-	△
6	○	×	○	○
7	○	×	○	×
8	○	×	-	○
9	○	○	○	×
10	×	○	○	○
11	○	×	○	×
12	○	○	○	○
13	○	○	○	×
14	○	×	○	△
15	×	○	○	○
16	○	×	-	○
17	○	△	○	○
18	○	△	○	△
19	○	○	○	○
20	○	○	○	×
21	×	△	○	○
22	○	○	-	○
23	○	×	-	×
24	○	△	○	○
25	×	○	○	○
26	○	△	○	×
27	○	○	○	○
28	○	×	○	○
29	○	×	○	△